

「良かれと思って」が命を奪う

アウトティング

アウトティングとは、人のセクシュアリティを勝手に第三者に話してしまったり、SNSに書き込むことです。

これは、たとえ家族間であったとしても、絶対にやってはいけないことです。過去には、アウトティングによって自らの命を絶てってしまった人もいます。精神的に追い詰められ、鬱などになってしまったりすることも少なくありません。

過去のアウトティングによって起きた事件では、「良かれと思ってやった」という主張があります。ですが、本人の同意なく性自認や性的指向を公表することが、本人のためになることはありません。

セクシュアリティの話に関わらず、信頼している人に打ち明けたはずの自分の秘密が勝手に広まっていたら、気持ちの良いものではないと思います。当事者からカミングアウトされた場合は、「そうなんだ」と受け止めた上で、自分以外にカミングアウトしている人がいるのかや、共通の話題として話しても良い人がいるのかなど、当事者が伝えている

範囲を確認し、その範囲を勝手に広げないようにしましょう。



恋愛指向

恋愛指向とは「どんな人に対して恋愛的魅力を感じるか、感じないか」ということ。

一般的に、「恋愛感情」とは「友人としての好きとは違う好きという感情」と考えられています。しかし、恋愛感情が何かということとは主観的なことであるため、明確な定義はできません。

その上、恋愛感情を全く抱かない人、稀に抱く人、強く抱く人など様々です。恋愛感情が性的感情に結びつかない人や、恋愛感情しか抱かない人など、恋愛指向と性的指向は別のものであるという考えが大切です。

性的指向

性的指向とは、『どんな人に対して性的な魅力を感じるか、感じないか』ということ。

例えば、「自身を女性だと認識している人が好き」=「性的指向が女性に向いている」となり、「自身を男性だと認識している人が好き」=「性的指向が男性に向いている」となります。

自分のことを男性(女性)と認識しており、性的指向が女性(男性)に向いている人をヘテロセクシュアル。

自分のことを女性と認識しており、性的指向が女性に向いている人をレズビアンといい、自分のことを男性と認識しており、性的指向が男性に向いている人をゲイといいます。

見た目での判断ではなく、相手が自身の性をどのように認識しているかが重要になります。



友情や家族愛などの愛を持っているけれど

恋愛感情は持たず



恋愛のときめきやドキドキなどを

感じることはない。

恋愛の意味で誰かを好きになることがない



恋愛感情を持たないけれど、愛がないのではなく、
友情や家族愛などの愛情は持っています。

恋愛のときめきやドキドキを感じることがないけれど、
恋愛をすることだけが全てではないし
恋をしないことは不幸なことでもない。

恋をするのもしないのも、他人が踏み込むところではないのです。



性的なことに興味がなく

苦手意識が強かったり



触れ合うことや
性的な話題にも嫌悪を抱く

性的なことに興味がなかったり、
嫌悪を抱いたりすることはあるけれど
恋愛感情は抱くので恋人や好きな人はいます。

アロマアセクは恋愛感情を抱かず性的なことも苦手ですが、
ロマアセクは恋愛感情を抱くけれど、性的なことは苦手など
セクシュアリティはグラデーションと言われるように
人によって様々に変わります。



人を好きになることはあるけれど

人から好意を向けられることは



苦手だったり

嫌悪すら感じてしまう。

だから自分の好意は誰にも気づかせず

誰にも渡さないと決めている人もいる



恋愛感情を抱くけれど、
自分に恋愛感情を向けられることに嫌悪を感じてしまう。

恋愛感情を相手に抱きながらも、
相手が自分を好きになることを望みません。

だから、誰かを好きになることも避けたり、
絶対に恋愛感情を悟られないようにしたり、
自分の中で恋を終わらせて
誰かを巻き込まないようにしている人が多いです。



人を好きになることも

性的な感情を抱くこともあるけれど



たとえ好きな相手からであっても

他人に性的な感情を持たれると

不快感や嫌悪を抱いてしまう

どれだけ好きな相手からであっても
性的な感情を向けられると嫌悪を感じてしまったり、
恋愛感情が冷めてしまうこともある。

相手に性的な魅力を感じるけれど、性的な関係を持ちたくない。

好きな相手と結ばれたときに、パートナーと相談して
性的な接触をしないと決め、関係を続けている人もいます。



一目惚れという感覚がなく

友達など信頼関係を築いた人にも

恋愛感情を抱く

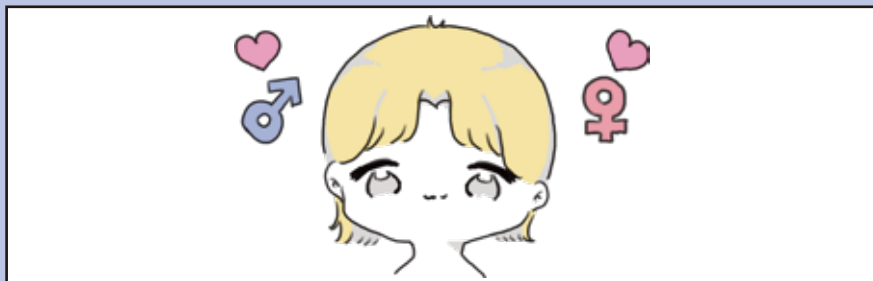


友達の先に恋愛があるような感覚

人を好きになるまでに時間がかかるため
アロマンティックだと思っていたりすることもある。

性別よりも信頼関係が優先されることもあり、同性を好きになることがあるけれど
バイセクシュアルとはまた違うように感じ、デミロマンティックがしっくりくる。

恋愛にたどり着くまでの道のりが長い感覚。



恋愛感情は抱くものの

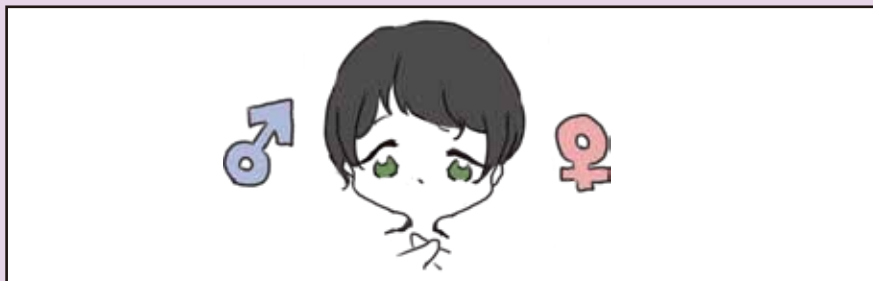
信頼関係を築いた人以外から
性的な感情を向けられるのは苦手だが



信頼関係を築いた人には
性的な感情を抱く

信頼関係の築けている人にのみ性的な感情を抱き
そうでない相手から向けられる性的な感情や接触到に嫌悪を感じる。

たとえ好きな相手であっても
信頼関係が築かれていないと性的な感情を抱かなかったり
相手からの性的な感情や接触到に嫌悪や苦手意識があります。



男女どちらでもないと感じている人

男女の両方に属していると感じている人



男女の真ん中にいると感じている人など

エックスジェンダーの中にもさまざまある



身体的な性に関わらず、性自認が男性にも女性にも当てはまらない。

エックスジェンダーと一口に言っても人それぞれ感じ方が違い

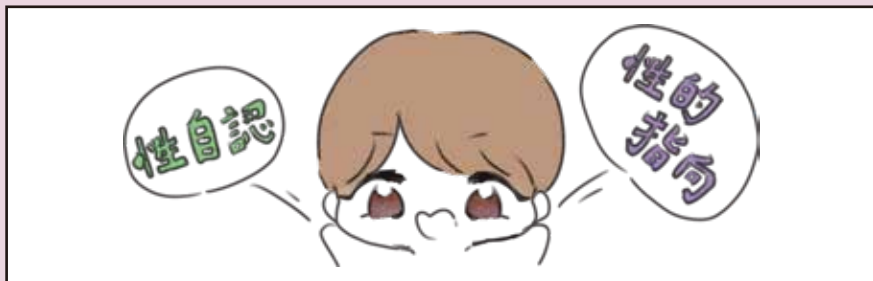
男性女性どちらでもないと感じている「無性」

男性でも女性でもあると感じてる「両性」

男性と女性の間にいると感じている「中性」

性自認が流動的で不安定だと感じている「不安定性」

があります。

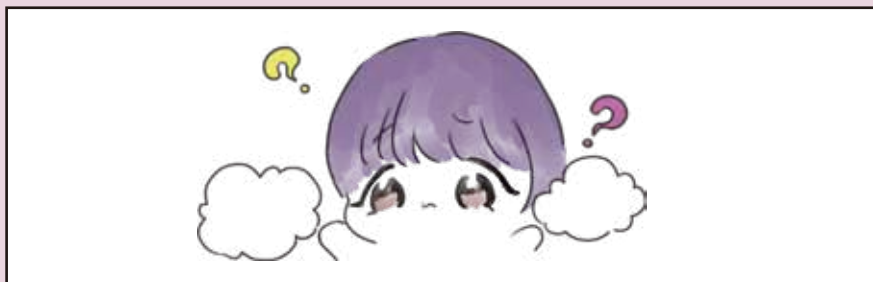


性自認や性的指向を
決めないほうが生きやすい

どのセクシュアリティもピンとこない



まだ決めかねている最中など
クエスチョニングにもさまざまある



自身の性自認や性的指向が定まっていない、
もしくは意図的に定めていない。
「まだ決まっていない」「わからない」「ひとつに決まるものではない」
と感じている場合に当てはまります。

名前のついた性に自分を当てはめることで生きやすくなる人もいれば
当てはめないほうが心地良いと感じる人もいます。

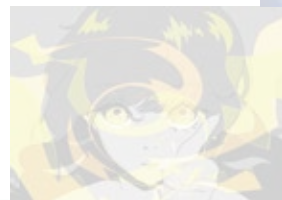
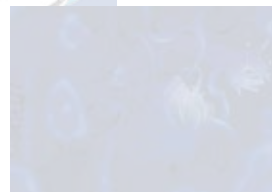
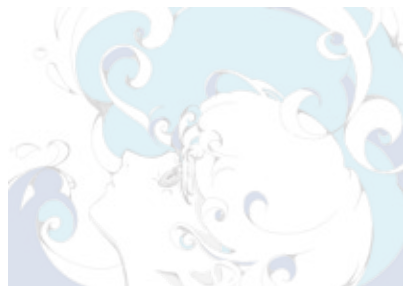
そのために、クエスチョニングがあります。



LGBTQ+のQ+に焦点を当てたいと思ったのは、デミロマンティックである友人の「カミングアウトしても、普通の感覚に名前をつけて特別だと思いたいだけだと言われてしまい、自分がおかしいのかと感じてしまう」という言葉がきっかけでした。

私の周りには、デミロマンティックも、リスロマンティックも、アロマンティックも、アセクシュアルもいて、マイノリティとはなんなのだろうと感じるほどに、それが当たり前になっています。知っていれば受け止められることも、知らなければ受け止めることも難しくなるのではないかと考え、知る機会になればと、卒業制作という多くの人の目に入る機会に制作しました。

これをきっかけに、「そうなんだ」と受け止めることができる人が増えていったら嬉しいです。



LGBTQ+に触れる

著者	金城真旺
発行者	金城真旺
発行日	2023年12月13日
連絡先	sdg-g21032@sist.ac.jp
印刷所	製本直送.com